

## 第5回 港湾の避難対策に関するガイドライン検討委員会

### 議 事 概 要

日時：平成25年9月20日(金)10:00～12:00

場所：中央合同庁舎第3号館11階特別会議室

出席者：磯部委員長、木場、清宮、福田、熊谷(兼)、高橋、熊谷(哲)、辰巳、高松、西園、朝堀各委員 他

#### 1. 主な議事

○事務局より港湾の避難対策に関するガイドライン等について説明するとともに、検討委員会メンバー等より意見交換を行った。

#### 2. 主な意見等

##### 【議事(2) 関係】

○今でも使えるものは設計しないが、逃げるほうの立場からすると、両方とも逃げられる場所なので、運用される段階で混乱をしないようにすべき。

##### 【議事(3) 関係】

○検討フローに、避難対象地域の中に何人いるのか、人数把握について盛り込んでほしい。

○外国船(海外の企業)についての対策について、英文化したパンフレットを作成するなどし、周知することが望ましいのではないかと。

○イベント時や外国人については注釈をするなど、今後、表現の仕方を工夫する必要がある。

○暫定的なビルについて避難者が、どこに逃げたらよいかが一目で分かるようにしたいので、明確にしなくてはならない課題である。津波避難ビルは表示の看板が全国一様だが、それと市民が混乱しないようにする必要がある。

○各港湾が、ガイドラインに記載されている港湾が持つ様々な特徴をすべてあわせもっているわけではないため、港湾管理者への精神的負荷が過重にならないよう、前段に「港湾の性格に応じて」と注釈を記載してはどうか。

○緊急時は企業用地内であっても、他の人が入るといったことが想定される。人命が救えるよう国・自治体が協調して体制を作り、支援してほしい。

○連携の道筋をはっきりつけてほしい、また、より具体的に伝わるようにしてほしい。

○災害時に避難の呼びかけに対し、実際に避難する人が少ないなどの事態が実際に起こっている。津波警報種類についての認識がどれくらいなされているのか等の問題があるため、きめ細やかな周知が必要である。

○集団的な避難訓練も大事ですが、自分の命を守るのですから、自分で把握するぐらいの姿勢を持って頂けるように情報提供、周知をしていただきたい。

○OP45、避難の方法について、「自転車による避難も同様である」とあるが、自転車について明記する必要性はなにか、「同様」とは何をさしているのか。渋滞のおそれがない

等自動車と異なる利点もあると考えられるため、そういった事項についても検討すればよいのではないか。

- 自転車に関する記載については港湾地域内には段差等あるので「注意しながら」という記載は必要ではないか。
- 経験の事例について参考資料など、どこかに盛り込んでどうか。事例としては、どういふ人が亡くなったのか(例えば港湾工事関係者や、車で避難したが幹線道路の渋滞にまきこまれた等)、また、避難に関して、港湾では距離があるため、可能な範囲で自動車を利用して避難したといった事例などがあれば有効な材料になると思われる。
- 中長期的な対策における港の再配置について、津波をしのぎやすい港の計画にしていくことが記載されているとよいのではないか。機能を高いところに置く、奥まったところにおく、動線といった事柄が示されることが望ましい。

(以上)